



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## 小さい勇気をたくさん持つこと

厳しい寒さのつづいた1月末だった。朝、校門で子どもたちを「おはよう」のあいさつで迎え入れているのだが、1月末の1週間は、悲しくもないのに寒風で涙が出てきた。しばらくすると手先、足先が痛くもなってくる。そんな中、子どもたちは、いつもと同じように友だちとワイワイお喋りしながら姿を見せるのだ。やがて、みんな校舎内に入る…が、しばらくすると始業前のわずか数分のこと、運動場に出てサッカーをするグループが登場する。さらに、日陰の吹きだまりになったところに集まってわずかばかりの雪をかき集めたり、氷を割ったりする一群も現れるのである。どの子も厳しい寒さを楽しんでいるのだ。体育ではマラソンにも励む。掃除の時間は、よいしょよいしょと声かけあって床の水拭きをする。どの子もにこにこ顔だ。そんな子どもたちに出会うと、思わず、私も手にしているぞうきんで一緒に床を拭きたくなってくる。厳しさ、困難さに、こんなにも楽しく向き合っているその姿勢はどこからわき出てくるのだろうか。せめて、しごとに楽しく打ち込む仲間に入れてもらいたいと、そんな衝動にかられてしまう。少しして、こんなになったと、子どもらは赤く染まった手を見せにくる。すごいなあ、がんばったなあ、と互いに見せ合い、労をねぎらい合った。

私たちは、ややもすると、誘惑に負けてしまいがちになる。それを仕方がないこととばかりに、いつもいつも取りかかる前から、そして、何かをしようという段になればすぐに、あれこれと言い訳をして、新たな世界を切り拓いていくチャンスを逃してしまっていることが多い。子どもたちが発揮しているような、小さい勇気をたくさん持つことは、自分を育て、新しい世界を拓いていくことにつながるものである。

何かにつけて楽をしたい、そんな自分の欲望に勝つような小さい勇気を少しでも持ちたいものだと、この冬の寒波と子どもたちは、私に示してくれた。